

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 18 日現在

機関番号：13501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24500812

研究課題名(和文) 狩猟採集社会に学ぶレクリエーションと健康

研究課題名(英文) Recreation and Health of Hunter-gatherers Society

研究代表者

川村 協平 (KAWAMURA, Kyohei)

山梨大学・総合研究部・教授

研究者番号：60126646

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,200,000円

研究成果の概要(和文)：ピグミーやエスキモーなど狩猟・採集社会に暮らす人々の研究から見てきたことは、自然と深く関わった暮らしの中には、子どもが元気に成長していくために必要なヒントがたくさん見つかるということである。たとえば、「空腹で暮らす」ことや、「不便でシンプルな暮らし」を送ること、「夜明けとともに1日が始まる」こと、「暑さや寒さを全身で感じる生活くりかえす」こと、「自然から食べ物を手に入れる」ことなどは子どもたちが元気に育つやり方である。これらのことから、遊びを含めた生活そのものが彼らにとって心身の健康を維持し、暮らしを豊かにするレクリエーションであると考えられる。

研究成果の概要(英文)：The current study observed Eskimos and Pygmy tribes who both practice hunting and gathering lifestyles. Several important aspects typical to those tribes who live closely to nature can be used as guidelines (and could possibly be beneficial) to Japanese children living in our modern society. "the experience of hunger" "the experience of a very simple lifestyle (with a minimum of possessions)," "life without a set schedule (i.e. wake up at sunrise)" "enduring harsh weather changes (hot and cold)" and "hunting for own food" are some of the habits that cause Eskimo and Pygmy children to be healthy while living in nature. Thus in order for children in Japan to stay healthy, the incorporation of daily recreation in nature is important.

研究分野：野外レクリエーション, 野外教育

キーワード：狩猟採集民 レクリエーション 健康 子ども 遊び

1. 研究開始当初の背景

本研究のメンバーは過去20年間アフリカカメルーンの熱帯雨林に住む狩猟採集民ピグミーの村で調査を行ってきた。とくに研究代表者の川村はこの4-5年間アラスカ北極圏の狩猟採集民エスキモーの村での調査も合わせて行った。その中で、いわゆる文明からかけ離れ、自然の恵みだけを利用して暮らすピグミーは生き生きと元気に暮らしており、彼らの暮らしから文明の力に依存した私たちの生活を考えざるを得ない現実直面した。一部が文明化しているエスキモーにおいてもピグミーと同じように、自然、仲間、家族を大切にしながら生活をしていることを実感し、狩猟採集社会のライフスタイルが心身の健康に及ぼす影響を追跡する必要性を感じる。

また、狩猟採集民の子どもたちは遊びを通じて仲間との関わりを深めていく。特にピグミーの子どもたちは森の中での仲間遊びが彼らが自然界で生きていくための知識や知恵を身につける重要な時間である。狩猟民であるエスキモーも同様に遊びを通じて厳しい自然界で暮らす知恵を身につけるものと考えられる。

本研究は生態人類学(時空間利用、ライフスタイル)、運動生理学(加速度脈波、血圧)、教育(野外教育、レクリエーション論)、健康科学における研究手法を統合した学際的研究である。本研究のユニークな点は、私たち研究グループが、世界に残存する数少ない狩猟採集民、アフリカ熱帯雨林のBAKA ピグミーを対象として20年近く調査してきたこと、すなわち彼らと親密な関係を構築し長年維持してきたことである。また、エスキモーの調査においても最先端の測定機器を用いて生理学的測定を行うことのみならず、彼らの持続可能なライフスタイル、すなわち、有限なカリブーなどの天然資源動物を放蕩しないように狩猟採集

する生活、平等な食物分配システム、食を通じて生物の生と死に日常的に接することで育まれる生命に対する畏敬の念などに着目し、ていねいな参与観察をすることで現代社会に生きるわたしたち大人、そして子どもたちに多くの示唆を与えてくれることが期待できる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、狩猟採集民に焦点を当て、(1)今なお自然の力に依存して暮らす狩猟採集民エスキモーの生理、栄養、健康状態を調べることにより、現代に生きる私たちの健康=生物としての「あるべき姿」を描き出すこと。また、(2)北極圏に暮らす狩猟採集社会の日常生活の観察により、現代人のライフスタイルを考えると同時に、レジャーレクリエーション活動の意義と可能性を再考することである。

狩猟採集民の子どもたちは遊びを通じて仲間と関わりを深めている。とくにアフリカのピグミーの子どもたちは森の中での仲間遊びが、彼らが自然界で生きていくための知識・知恵を獲得していく元になっていると考えられる。エスキモーの子どもたちのライフスタイルや遊びの種類、活動を丁寧に調査することにより、現代社会の子ども教育や生涯教育についての有益な示唆が得られるであろう。

3. 研究の方法

アラスカ州の北極圏国立公園(Arctic Circle National Park)内にあるアナクツビクパス(Ankutvuk Pass)の村で調査を行なった。この村は、300名程度の人口のほとんどがエスキモーで、いまなおカリブーの狩猟を生活の中心としている。村には小学校、中学校があり、主として白人のアメリカ人教師が授業を担当している。村においていくつかの生理学的指標、形態の測定を行なった。また、対象者たちが八

ンティングに行くときは同行して狩猟採集生活の参与観察およびインタビュー調査を行なった。内容はカリブーハンティングの歴史の変遷、ハンティング方法の変化、そこから生じた生活の変化などであった。

子どもたちが自然や家族、日常の生活に使うものなどに対して大切にしているものが何なのか、同様に親の世代が大切にしているものが何なのかをさぐるために、彼らの暮らしに照らし合わせたイラストや写真を利用し、2者択一法などの手法を用いて調査を行なった。イラストは美術を専門とする大学生に制作を依頼した。調査の対象はエスキモーの暮らす村の小学校児童であった。調査は教室での聞き取り調査、また、放課後の子どもたちに同行し外で行う遊びの実態を観察した。具体的には(1)子どもたちの日常の生活形態および日常の遊びの実態(2)親の世代の子ども時代の生活形態および日常遊びの実態を主としてアンケートにより調査し時代の変遷と世代を超えた遊びの変化を比較した。

4. 研究成果

調査、観察の結果子どもたちの外での遊び時間は短く、室内で過ごす時間が圧倒的に多かった。しかしこれは9月の調査での結果であり、気温のより温暖な7、8月の実態を把握出来てはいないのが現状である。また、冬の子どもの外遊びは極めて限られたものであった。

さらには、子どもたちが大切にしているものは家族であり、自然であった。また同時に携帯電話や新しいもの、便利なものにつよい関心を示した。カリブーハンティングに同行した結果から、彼らの狩猟は食生活のためだけではなく、多分にレクリエーション的な意味合いが強いと考えられる。ピグミーやエスキモーなど狩猟・採集社会に暮らす人々の研究から見えてきたことは、自然と深く関わった暮らしの中には、子ど

もが元気に成長していくために必要なヒントがたくさん見つかるということである。たとえば、「空腹で暮らす」ことや、「不便でシンプルな暮らし」を送ること、「夜が明けるとともに1日が始まる」こと、「暑さや寒さを全身で感じる生活を繰り返す」こと、「自然から食べ物を手に入れる」ことなどは子どもたちが元気に育つやり方である。これらのことから、遊びを含めた生活そのものが彼らにとって心身の健康を維持し、暮らしを豊かにするレクリエーションであると考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)

Yamauchi T, Sato H, Kawamura K (2014) Nutritional status and physical fitness of Pygmy hunter-gatherers living in the African rainforests. African Study Monographs, 47 Suppl., 25-34. (査読有)

Sato H, Hayashi K, Inai H, Yamaguchi R, Kawamura K, Yamauchi T (2014) A controlled foraging trip in a communal forest of southeastern Cameroon. African Study Monographs, 47 Suppl., 5-24. (査読有)

Kawamura K, Yamauchi T, Hayashi K, Sato H (2014) Blood pressure of Baka Pygmies living in southeastern Cameroon. African Study Monographs, 47 Suppl., 35-44. (査読有)

Hagino I, Sato H, Yamauchi T (2014) The demographic characteristics and

nutritional status for a hunter-gatherer society with social transitions in southeastern Cameroon. African Study Monographs, 47 Suppl., 45-57. (査読有)

Yamauchi T, Hagino I (2014) Estimation of the period of childhood and child growth characteristics of Pygmy hunter-gatherers in southeast Cameroon. In: T Akazawa, N Ogiwara, HC Tanabe, H Terashima (eds.), Dynamics of Learning in Neanderthals and Modern Humans, Vol. 2 Cognitive and Physical Perspectives. Springer, pp. 99-103. (査読有)

Hagino I, Yamauchi T (2014) Daily physical activity and time-space using of Pygmy hunter-gatherers' children in southeast Cameroon. In: T Akazawa, N Ogiwara, HC Tanabe, H Terashima (eds.), Dynamics of Learning in Neanderthals and Modern Humans, Vol. 2 Cognitive and Physical Perspectives. Springer, pp. 91-98. (査読有)

Hagino I, Hayashi K, Kawamura K, Sato H, 8020* (2013) Adolescent growth spurt and growth pattern factors related to the short stature of pygmy hunter-gatherers of Southeast Cameroon. Annals of Human Biology, 40(1), 9-14. (査読有)

Sato H, Kawamura K, Hayashi K, Inai H, Yamauchi T (2012) Addressing the wild yam question: how Baka hunter-gatherers acted and lived during two controlled foraging trips in the tropical rainforest of southeastern Cameroon. Anthropological Science, 120(2), 129-149. (査読有)

〔学会発表〕(計5件)

川村協平,北極圏に暮らすアラスカエスキモーの狩猟生活(2012),日本野外教育学会第15回大会,7/7-8,沖縄キリスト教学院大学(沖縄県那覇市)

古川聖,川村協平,小学生がキャンプで気づく「モノの必要性」(2012),日本野外教育学会第15回大会,7/7-8,沖縄キリスト教学院大学(沖縄県那覇市)

古泉佳代,金子佳代子,川村協平(2012),野外活動における「食」の教育力,日本食育学会,6/19-20 静岡県富士宮市市民文化会館(静岡県富士宮市)

Hagino I and Yamauchi T(2012) Daily physical activity and time-space allocation of Pygmyhunter-gatherers' children in southern Cameroon,2012 International Conference on Replacement of Neandelthals by Modern-Humans: Testing Evolutionary Models of Learning,11/18-24 National Centaer of Science Building, Tokyo,Japan

Yamauchi T and Hagino I (2012) Estimation of the period of childhood and child grows characteristics of Pygmy hunter-gatherers in southern Cameroon 2012 International Conference on Replacement of Neandelthals by Modern-Humans:Testing Evolutionary Models of Learning, 11/18-24 National Centaer of Science Building, Tokyo,Japan

6. 研究組織
(1)研究代表者

川村 協平 (KAWAMURA, Kyohei)

山梨大学・総合研究部・教授

研究者番号：60126646

(2)研究分担者

山内 太郎 (YAMAUCHI, Taro)

北海道大学・保健科学研究所・教授

研究者番号：70345049